

【特集】 ☆ クリスマスの持ち方（事例紹介） ☆

クリスマスを取り組み——鶴見教会の例

鶴見教会長老 佐藤 金吾 さとう きんご

○鶴見教会では、10数年前から「クリスマス礼拝と祝会」をつぎのように行ってきています。

幼小学科クリスマス（実施日：主日クリスマス礼拝日の午後4時～5時半）

・第一部 礼拝、第二部 祝会

中学生とからし種の会のクリスマス（実施日：12月23日の午後4時半～6時半）

・第一部 礼拝、第二部 祝会

・その後、キャロリング（教会主催 7時～9時）に参加します。

なお、「からし種の会」は高校生から大学生までをメンバーとする団体で、クリスマスや夏期学校の際に中学科と一緒に活動しています。

○その準備は9月から始めます。クリスマス委員が出した原案をもとに10月の教師会で決め、これにそって準備を進めます。例えば、ページントの練習の内2回は礼拝堂で行いますので、小会で了解をとっています。

○教師会で扱うクリスマスに関する内容

- ・日時 ・プログラム全般 ・クリスマスまでのスケジュール（詳細にわたる）
- ・備品や用具の点検・補修 ・クリスマスの飾り付け ・クリスマス献金の送り先
- ・案内のちらし ・献金袋等の手配 ・生徒へのプレゼント ・サンタクロースを誰に 等。

○他教会日曜学校とのクリスマス・カードの交換

クリスマスの喜びを大きくするためにも、カード交換を大切にしたいと願っています。そのため、カード交換の作成・発送の担当者を決めています。

○幼小学科クリスマスの内容・工夫

第一部 礼拝（礼拝堂）

- ・キャンドルサービスで始まり、中心はページント、最後に牧師の祝祷で終わります。
- ・ページントについて（約40分）

配役は、希望によって決めますが、片寄ったときは、前年度までの配役を考慮し、生徒に役柄を説明して、納得してもらって決定します。

毎年、少しずつ台本を見直し、今年は羊飼いに力を入れようとか、博士の台詞を追加しようなどと、配役を見ながら決めます。

ページントは、生徒だけでなく、SSの父母や教師にも参加してもらいます。特に、父母で構成した聖歌隊は場面を盛りあげ、好評でした。



その他、羊飼いたちが楽器を演奏する場面、また博士が星に導かれる際、ひもを使って星をスーと動かす場面など、が好評でした。

第二部 祝会（階下ホール）

- ・祝会はティーパーティー形式で、サンタが来るまでの間、父母・教師・教会員と一緒に過します。
- ・サンタからプレゼントをもらって終了します。
- ・階下ホールの飾りつけは、ツリーと窓枠に貼った4枚のクリスマス画を描いた装飾紙（日曜学校で作成）が主で、地味にしています。

ツリーは、大人用の飾り付けの他に、SSの生徒用にパラソルチョコレートを飾り、各自一本ずつツリーからとって持ち帰るようにしています。

○中学生とからし種の会のクリスマスの内容・工夫

第一部 礼拝（礼拝堂）

- ・説教部分を「メッセージ」としており、最後に牧師の祝祷で終わります。
- ・礼拝の中では、司会やオルガンの伴奏も中学生～大学生が行います。
- ・メッセージ部分では、「靴屋のマルチン」などクリスマスに関連深いお話しや絵本の朗読を行っています。特に、その年に受洗や信仰告白をした青年がいる場合は証しをしてもらいます。

第二部 祝会（階下ホール）

- ・キャンドルサービスをした後、夕食と一緒に食べ、その後アトラクションで楽しめます。
- ・アトラクションは、中学生の出し物（歌、ハンドベル、クイズ、手品など等）とからし種の会による「パネルシアター」です。以前は、200円程度のプレゼント交換やビンゴをしたこともあります。
- ・パネルシアターでとりあげた作品

「たいせつなきみ」（2010年）

「かたあしダチョウのエルフ」

（2009年）

「小さな羊と小さな天使」（2008年）

「千の風になって」（2007年）

「かさをささないシランさん」

（2006年）

「おおきなおおきな木」（2005年）

「ネコギャル」（2004年）

「ありがとう、地雷ではなく

花をください」（2003年）

「すてきな三人組」（2002年）

「やさしいあくま」（2001年）

- ・特に、パネルシアターは毎年好評で、多くの教会員にも見せたいとの願いから、教会のいろいろな集まりでも実演しています。

